Project	地域協働専攻　国際協働グループ
02	**函館・西部地区における多世代交流プロジェクト**
メンバー	［学　　生］ 鈴木　聖 / 澤田　藍 / 馬場　鈴央 / 軽部　遥 / 佐藤　彩月 / 竹田　愛菜 / 今井　裕華 / 堀籠　真友 / 森　くるみ / 城戸　桃子
	［担当教員］ 有井　晴香

【背景】

全国的に空き家の増加率が問題となっている中、函館市内においても高齢化や空き家率の増加が問題となっている。特に、西部地区では高齢化と空き家増加率の両方において最も高まっていることから、地域プロジェクトの活動を通じて、西部地区を活性化できないかと考えた。

【目的】

地域プロジェクトの活動を通じて、西部地区における高齢化や人口減少といった問題から生じるコミュニティの縮小を抑え、西部地区に住む人々の人間関係を広げることに貢献する。

【概要】

前期・後期を通して、「弁天班」と「谷地頭班」に分かれて活動を行った。「弁天班」は、主にスマイルクラブの開催と弥生小学校での学習支援を行った。「谷地頭班」は、主に谷地頭町の街歩きを通して、インスタグラムで街の魅力の発信を行い、別途スマイルクラブを開催した。

【プロセスと成果】

〇弁天班

前期は、子どもたちが年齢を問わず交流の幅を広げる機会を作ることを目的とし、スマイルクラブを2回運営した。成果として、子どもたちの高い満足度を得ることができた。しかし、参加者がお互い顔見知りということもあり、他学年の友人や知り合いを新しく作るきっかけとなるには十分ではなかった。また、子どもたちと仲を深めるために弥生小学校での学習支援の活動を開始した。

後期は、弁天班は前期に引き続きスマイルクラブの運営と弥生小学校での学習支援による小学生との交流を行った。弥生小学校での学習支援を継続したことにより、小学生との交流が深まり、スマイルクラブの実施をより広く周知することができた。その成果として、第3回スマイルクラブでは最も多い参加数を記録することができ、運営に関して多くの意見を集めることができた。しかし、第4回スマイルクラブでは、期待していた参加数を大きく下回ったことから、開催時期の検討が課題であると分かった。

〇谷地頭班

前期は、人口が減少している西部地区を活性化させるために、西部地区の魅力を多くの人に発信しようと考えた。具体的には、インスタグラムを用いて、谷地頭についての魅力、イベントの情報などを発信した。より多くの人に谷地頭町に興味を持ってもらうため、直接地域の人への取材を行い、インスタグラムの投稿に工夫を凝らした。多くの人に投稿を見てもらえたが、高いクオリティの投稿を安定して続けることが出来なかったという課題が残った。

後期は、地域の活性化には多世代交流が必要になると考え、子どもから高齢者まで様々な人が集まり、楽しむことができるイベントを計画した。新型コロナウイルス感染症　の流行があったため、イベントは子どものみ対象となったが、谷地頭町児童館で「スマイルクラブ」を開催することが出来た。カードゲームやクイズ大会を通し、子ども同士の交流、大学生と地域の子どもの交流の場を作り、スマイルクラブは成功に終わった。しかし、イベントの対象は子どものみとなってしまったため、多世代交流を図ることは出来なかった。

弁天班【第4回スマイルクラブの様子】

谷地頭班【インスタグラムの投稿】

【総括と反省・今後の課題】

〇弁天班

前期は、スマイルクラブの企画・運営を通してイベントの構成や子どもたちの遊びの好みを知ることができた。大学生との交流においても、打ち解けるまでに時間は要さずスムーズに交流することができた。弥生小学校での学習支援においても、学校生活を観察・交流できたことでイベントの企画・宣伝に役立てることができた。

後期は、前期のスマイルクラブの活動を活かし、より子どもたちの意向に沿った活動内容を組み立てることができた。また、弥生小学校における小学生との交流から、スマイルクラブの周知を広く行うことができた。スマイルクラブの活動時には他学年の友達同士で助け合う姿も見られた。前期の活動と比較してスマイルクラブの企画・運営をスムーズに出来たことに加え、西部地区の小学生とより深い交流ができたが、最後に行った第4回スマイルクラブでは、小学生が冬休み期間中であったため、冬休み前のみの告知となってしまい、スマイルクラブの開催を印象付けることができなかった。そのため、参加者が減少してしまい、期待通りの活動を行うことが出来なかった。活動を通して、目的である西部地区に住む人々のコミュニティを広げるための機会を作ることができているように感じ、継続的なイベントの運営と弥生小学校での活動によってプロジェクトをさらに効果的なものにすることができた。

今後の課題として、イベント開催に向けた事前調査により力を入れることや宣伝活動の工夫が挙げられる。これらによって、子どものみならず多世代が交流する場を作ることができるのではないかと考えるとともに、イベントの開催を印象付けることにもつながると考える。

〇谷地頭班

前期は、谷地頭に実際に足を運び、谷地頭の人々と交流して谷地頭について知っていく中で、谷地頭の魅力、谷地頭の方々の温かさに触れることができた。インスタグラムを開設し、アカウント作成から企画、取材など一から投稿の作成、運営を行い、前期中はインスタグラムで週2回ずつ計19回の投稿を作成した。多くの人に投稿を見てもらえたが、投稿を見た人が実際に谷地頭を訪れたのかわからず、インスタグラムの活用方法が今後の課題となった。

後期は、弁天町と協力してスマイルクラブの開催を1度行い、その宣伝、報告をインスタグラムで行うことができた。また、インスタグラムの投稿を週1回に頻度を下げ、投稿のクオリティを上げることに重きを置いた。インスタグラムの運営と同時並行で谷地頭町児童館において小学生と交流するイベントの企画、準備を進め、開催した。活動を通して、地域の人たちと交流する機会は、地域を活性化させるうえで重要なものだと感じた。インスタグラムの運営だけでなく、イベント開催によりプロジェクトをより充実させることができた。

今後の課題として、多くの人にインスタグラムの投稿をみてもらうための投稿の工夫や、多世代がより活発に交流することができる機会を増やすためにどのようなイベントが効果的であるかを考える必要がある。

【地域からの評価】

〇弁天班：スマイルクラブや学習支援の活動を通して、スマイルクラブの継続を希望する声をもらえた。また、保護者の方からは、子ども同士の交流の場に加え保護者同士の交流の場も少ないため、保護者も交流できる場があればありがたいという声もいただいた。一方で、高齢者の方からは子どもとの交流の機会は嬉しいが、子どもたちに迷惑をかけてしまう可能性を心配するという声もあり、消極的な意見をいただいた。

〇谷地頭班：地域の方に取材を行った際に、大学生が活発に地域の活性化に携わろうとしてくれて嬉しいという声をいただいた。インスタグラムでの発信やスマイルクラブでの交流については、谷地頭町の魅力を多くの人に発信してくれたり、子どもたちの憩いの場を作ってくれたりして本当にありがたいという声もいただけた。また、高齢化率の高い地域での活性化を実現させるためには、大学生をはじめとした若者のより活発な力によって、地域がもっと素敵な場所になるのではないかというご意見もいただいた。

【年間スケジュール】 ※SC＝スマイルクラブ

■前期

5月 「谷地頭散策」
　弁天：第1回SC計画
　谷地頭：まちづくりワークショップ

6月 「中間発表準備」
　弁天：第1回SC準備・運営・反省
　谷地頭：Instagram開始・取材

7月 弁天：第2回SC計画・準備・運営

■後期

10月 「後期活動計画」
　弁天：弁天町散策

11月 「第3回SC準備・開催・反省」

12月 弁天：第4回SC準備
　谷地頭：谷地頭児童館訪問

1月 「成果発表会準備」
　弁天：第4回SC開催
　谷地頭：谷地頭SC開催